



# 謹んで年頭のご挨拶を申しあげます

秋田なまはげ農業協同組合 代表理事組合長

## 佐藤 広美

あけましておめでとうございませす。昨年中は当JA事業へ特段のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申しあげます。

昨年は、例年と異なる時期に繰り返された高温と低温や、大雨、夏期の日照不足など、農作業や農産物にとって厳しい気象経過でありました。水稲では、登熟および収穫期の遅れや収量の減少が管内各地で見られ、生産者の皆様の農業経営に大きく影響する事態となりました。また、長引くコロナ禍に加えて物価高による消費者の買い控えなども見られ、農産物の需要および販売単価の変動が大きい状態が続いており、農業関係者の皆様は不安を拭えないことと思います。そのような状況でも、販売額や単価、出荷量などが前年度を上回った園芸品目が多数あり、高品質かつ安定的な農産物の

生産に挑む生産者のご尽力や栽培技術の高さを実感しております。大仙市で行われた第145回秋田県種苗交換会でも、全国農業協同組合中央会会長賞を受賞した安田源一郎さんのネギ「項羽一本太」や、全国共済農業協同組合連合会秋田県本部運営委員会会長賞に輝いた三浦孝市さんの大豆「リュウホウ」など、管内生産者が手塩にかけた農産物が多数入賞し、生産者の皆様の農業生産への真摯な姿勢が結果に表れました。

ロシアによるウクライナへの侵攻が始まって一年が経過しましたが、世界情勢が不安定な状態が収束する兆しは見えません。加えて、コロナ禍による経済・物流の混乱や世界の人口増加なども起因し、お金があれば食料を買うことができる時代は変化しつつあります。このような状

況で、わが国の食料安全保障を強化することが一層重要視すべき問題であり、地域農業の生産基盤の弱体化を防ぎ農産物の安定生産に尽くすことが、国民の生活を守ることに他なりません。農業やJAを取り巻く環境は厳しさを増しており、とりわけ、肥料や農薬、飼料、燃料などの価格の高騰は、農業経営を圧迫する喫緊の課題です。現在、国や自治体から支援策が講じられており、当JAは今後も関係各所と綿密な連携を図り、生産者への支援や農業経営の安定化に努めてまいります。

当JAでは昨年「NAMAHA AGRI YELL PROJ ECT(なまはげアグリエールプロジェクト)」と銘打ち、農業所得の増加を最大の目的とした多角的な生産振興策に取り組んでいます。役員が既存の概念にとらわれない視

点を持ち、栽培管理や出荷体制、販売促進など農業に関するあらゆることを見直し、産地の成長を促しました。今年も引き続き様々な施策に取り組み、生産者の皆様への「応援(エール)」となるような産地育成に力を注いでいく所存です。

JA秋田なまはげは今年も、農業、農地や生産者、消費者、そしてそれらで構成される地域社会のいちばんの応援団として、持続可能な農業の振興と地域に根ざした総合サービスの提供に取り組み、役員一丸となって豊かな地域社会の実現を目指します。

結びに、本年も引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様の一層のご多幸とご健勝をお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。